

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：87101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2023

課題番号：26770059

研究課題名（和文）九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research on Buddhist nirvana paintings mainly in the Kyushu region

研究代表者

富岡 優子 (TOMIOKA, YUKO)

北九州市立自然史・歴史博物館・歴史課・学芸員

研究者番号：20508957

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は(1)九州地域を中心とした仏涅槃図を調査しの高精細画像を収集すること(2)仏涅槃図の様式分類の方法論を確立することであった。以下、それぞれについて概要を記す。
(1)九州地方を中心に18点の仏涅槃図の調査および撮影を行った。調査を行った作品については個別に調書を作成した。また新規に発見した2点の仏涅槃図については詳細を論文で公表した。
(2)仏涅槃図に描かれる涅槃関連のテキストに登場する代表的な人物のモチーフ数種抽出し、各作品のデータを比較し仏涅槃図の分類を試みた。これらのモチーフについて全て同じ特徴が見いだせる作例は近似した図様を表すことは確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

調査を行った仏涅槃図は未紹介作例も多く、中世に遡る作品のうち福岡・開善寺本については論文発表した。また近世の作品でも山口・妙徳寺本は小倉藩の御用絵師・黒川等育の初出作例であり、制作年も判明する基準作例として紹介した。優品の発見は仏涅槃図研究また美術史学全体の発展に寄与する。また調査成果を所有者等と共有することは文化資源としての魅力を伝えることに他ならず、文化財の保存・活用の礎となった。

研究成果の概要（英文）：The objectives of this study were (1) to collect high-resolution images of reclining Buddha images mainly from the Kyushu area and (2) to establish a methodology for stylistic classification of reclining Buddha images. The following is an overview of each of these objectives.

(1) Eighteen paintings of the Nirvana of Buddha were surveyed and photographed, mainly in the Kyushu region. (2) We prepared individual reports on each of the works we surveyed. For the two newly discovered paintings, details were published in a paper.

(2) Several motifs of representative figures appearing in nirvana-related texts were extracted and compared to the data of each work in an attempt to classify the paintings. We were able to confirm that the examples in which the same characteristics can be found in all of these motifs are similar to each other.

研究分野：美術史学

キーワード：仏涅槃図 様式分類

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

釈迦の涅槃を描いた仏涅槃図の包括的な研究としては中野玄三氏が『涅槃図』(日本の美術 No268、至文堂、1988年など)で平安時代以前の仏涅槃図を第一形式、鎌倉時代以降のものを第二形式と大きく分類した。

その後、仏涅槃の総合的研究は足踏み状態であったが、赤沢英二氏が『涅槃図の図像学 仏陀を囲む悲哀の聖と俗の千年の展開』(中央公論美術出版、2011年)で多くの仏涅槃図を取り上げた研究成果をまとめ図様の分類について言及した。同時期に渡邊里志氏が『仏伝図論考』(中央美術公論出版、2012年)で仏伝涅槃図や涅槃変相図などの作品を取り上げ個別研究とともに用語の整理を行っている。

また、日本の仏涅槃図を研究するには中国や朝鮮半島の作例との比較も不可欠であるが、井手誠之輔氏が「影響伝播論から異文化受容論へ―鎌倉仏画における中国の受容」(『講座日本美術史 2形態の伝承』東京大学出版会、2005年)の中で中国仏画の図様の様式の受容に模倣・増幅・拒絶の型があると提言した。

このように仏涅槃図の総合的研究は徐々に進んでいるものの膨大な作品数があるために未だ発展途上であると言わざるを得ない。

本研究では九州を中心とした地域の仏涅槃図の画像情報のデータベース化および様式分類の方法論の構築を目指すものである。また、九州は日本国内でも朝鮮半島や中国大陸に最も近い海外への玄関口である。つまり文化の入口ともなった地域とも言え、海外の文化受容などを考える上では適した地域である。

本研究は仏涅槃図の総合的研究という長期的な展望に基づき、本研究をその出発点に位置づけた。

2. 研究の目的

仏涅槃図は各宗派で広く行われる涅槃会の本尊であるため、膨大な数の作例が現存する。その全体像の把握は、美術史学のみならず、仏教史や宗教儀礼の問題を考える上でも重要な課題である。本研究は大きく下記2点を目的とする。

(1) 仏涅槃図の基本情報の集積

九州地域の仏涅槃図に関する既存情報は一部の指定文化財に限られており、中世に遡る作例であっても詳細な情報が得られない作例が多く、未調査の作例も多い。九州を中心とした仏涅槃図の情報の集積し、未紹介の作品については国内の他地域や中国・朝鮮半島の作例との比較なども含め、順次発表していく。

(2) 様式分類の方法論の構築

集積した仏涅槃図の基本情報を元に、様式分類を行うための基本モチーフを決め、作品毎にデータ化する。多くの作品のデータを集積することにより、膨大にある仏涅槃図の中での作品の特性や作品群としての傾向を可視化できると考えた。このようなデータベース化の方法論を検討・構築する。

3. 研究の方法

(1) 九州地域を中心とした仏涅槃図の現地調査

九州を中心とした中近世の仏涅槃図の作例を可能な限り実見し、撮影・調査を行い高精細画像の収集を行うとともに、作品毎に調書を作成し情報を蓄積する。

(2) 作品のデータベース化

仏涅槃図にしばしば描かれるモチーフを抽出、一覧化し、作品毎の比較や作品群の分類をおこなう。モチーフの選択については中野玄三氏が分類した第一形式と第二形式の特徴を参考にし、加えて涅槃経典類に登場する人物たちの姿を中心に下記の通り5種のモチーフについてデータを取ることとした。

釈迦の姿

a 両手を体側にそわせる b 右手枕 c 右手を前に差し伸べる

盛飯を持つ純陀(釈迦に最後の供養を行いうことで福德を得る純陀)

a なし b 画面右に配置 c 画面左に配置 d 盛飯は持たず釈迦に供える

阿難卒倒(仏弟子阿難が釈迦の涅槃に慄き気絶する)

a なし b 単独で倒れる c 阿那律に水を浴びせかけられる d 阿那律に抱き起こされる

釈迦の足元の老女(釈迦の入涅槃にあたり供養の品がないと嘆く百歳の老婆)

a なし b 足に触れる c 足元にいる d 老婆以外が足に触れる

摩耶夫人の降下

a なし b 画面右 c 画面左 d その他

4. 研究成果

(1) 実地調査

出産育児や新型コロナウイルス感染症拡大のため、九州全域ではなく、福岡近隣の調査に偏ったが研究期間中に下記(17件18点)の仏涅槃図の実地調査を行った。

福岡・恵光院、福岡市立美術館、福岡市博物館、福岡県立美術館(東長寺、善導寺の写本2件)、鹿児島・黎明館(釈迦八相之図)、福岡・開善寺、山口・妙徳寺、福岡・豊前国分寺、山口・常妙寺、兵庫・常勝寺、三重・大樹寺、三重・龍源寺、福岡・称名寺、福岡・大正寺、福岡・妙法寺、福岡・長圓寺、福岡・善導寺

その他、九州国立博物館や長崎県歴史文化博物館にて展示中の仏涅槃図について観覧し、細部の確認などを行った。

(2) データベース化

実地調査を行った作品について、先の研究方法に基づきデータ入力を行った。またこれまでに見た作例などを含め、37点の仏涅槃図について一覧化した。

平安時代以前にしばしば見られる第一形式の作例について、前述3-(2)-釈迦の姿はa釈迦が両手を体側にそわせる姿であり、中野玄三氏が指摘されるように大きく分類できる。または、3-(2)-純陀の供養については第一形式、第二形式のいずれにも見られるモチーフであり、~については第二形式の作例に主にみられる図様である。

第二形式の中での図様の分類については、~まですべて同じ特徴を持つ作例についてはその他の箇所についても図様が近似しており、同系統とも言える傾向が掴めた。

しかし、例えば阿難が卒倒する場面で阿難を正気に戻すため水をかける様子については、そのモチーフの中で様々なヴァリエーションがあり整理できていない。また制作年代や国籍についての検討も併せて必要と考えられる。現状では傾向をはっきり明示できるほどの情報量とも言えない。

よって、本研究は発展途上であり、引き続きこの手法をより分かりやすく整理し、データの集積を行うとともに、作品の制作年代なども考慮しながらデータベース化していくことは今後の課題である。継続的に研究を進めていく中で仏涅槃図を体系的に分類し、その図様の広がりや流行を追うことが期待できる。さらには儀礼や絵解きとの関係、また絵師による図様の継承など傾向などを知ることができるかもしれない。

(3) 公開・発表

本研究において発見した仏涅槃図(福岡・開善寺本、山口・妙徳寺本)については個別に資料紹介を行った。開善寺本については最初から九州に所在していたものかは不明であるが室町時代に遡る優品である。また妙徳寺本については江戸時代の作品ではあるが、小倉藩の御用絵師である黒川等育の基準作例であり黄檗宗の影響も考えられた。

京都国立博物館所蔵の『釈迦金棺出現図』について学会発表を行った。『釈迦金棺出現図』には釈迦が涅槃に入ってまもなく、実母である摩耶夫人のため棺から起き上がり説法するという劇的な母子再会の場面とともに、鍛冶工純陀が釈迦に最後の供養をおこなう場面が描かれた涅槃図の変化形とも言える作品である。しかし、従来典拠とされてきた『摩訶摩耶経』や『仏母経』に純陀の供養に関する記述はなかった。そこで金棺出現と純陀の供養をつなぐテキストの探索を行い、敦煌周辺において発見されている『仏母経』、また元時代に成立した『勅修百丈清規』に両者をつなぐ痕跡が見られることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 富岡優子	4. 巻 18
2. 論文標題 北九州市・開善寺所蔵 仏涅槃図	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告B類歴史	6. 最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富岡優子	4. 巻 21
2. 論文標題 小倉藩御用絵師 黒川等育の仏涅槃図	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告B類歴史	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 富岡優子
2. 発表標題 釈迦金棺出現図 - 所依たるテキストと制作背景 -
3. 学会等名 第67回美術史学会全国大会
4. 発表年 2014年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

調査を行った新出の仏涅槃図のうち2点を初公開した。

1. 福岡・開善寺本 企画展「小笠原家と開善寺」北九州市立小倉城庭園 平成28年
2. 福岡・長圓寺本 企画展「蓮 - 極楽浄土の花 - 」北九州市立自然史・歴史博物館 令和3年

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------